

第1章 経緯及び目的

本県では、希少種の適正かつ効果的な保全を図るために、それらの生息生育環境を保全する必要があることから、里山、沿岸域、湿地・湿原、奥山という県内の主要な生態系ごとに、保全の考え方を作成することとしている。

今回は、平成15年3月に作成した「里山生態系保全の考え方」、平成17年3月に作成した「沿岸域生態系保全の考え方」及び平成19年3月に作成した「湿地・湿原生態系保全の考え方」に続き、奥山を取り上げ、生態系の適切な保全を図ることを目的に検討を行った。

奥山は一般的に山の奥深い場所（深山）を示すが、本県では地域住民等により森林の多くが利用されてきたという特性がある。本書では、奥山を奥三河（新城市、豊田市（旧稻武町のみ）、設楽町、東栄町、豊根村）を中心とした、都市から離れた豊かな森林が広がる地域とし、その生態系の保全を図るために基本的な考え方を取りまとめるための検討を行った。

検討に際しては、植生図が地域の自然環境の状況を把握する上で基礎となる重要な情報の一つであることから、環境省による植生図の整備状況を踏まえ、図1-1の範囲を検討対象地域とし、現状や課題の整理を進めた。また、人口等、行政界に基づく統計数値については、奥三河の範囲で整理した。



図1-1 奥山生態系保全の考え方の検討対象地域

第2章 奥山の現状

1 自然環境

(1) 地形・地質・土壤

奥山は長野県、岐阜県、静岡県と接し、新城市の豊川沿いの平野部（標高 17m）から愛知県最高峰の茶臼山（標高 1,415m）までが含まれており、標高差は約 1,400m と県内でも起伏量の多い地域となっている（図 2-1）。

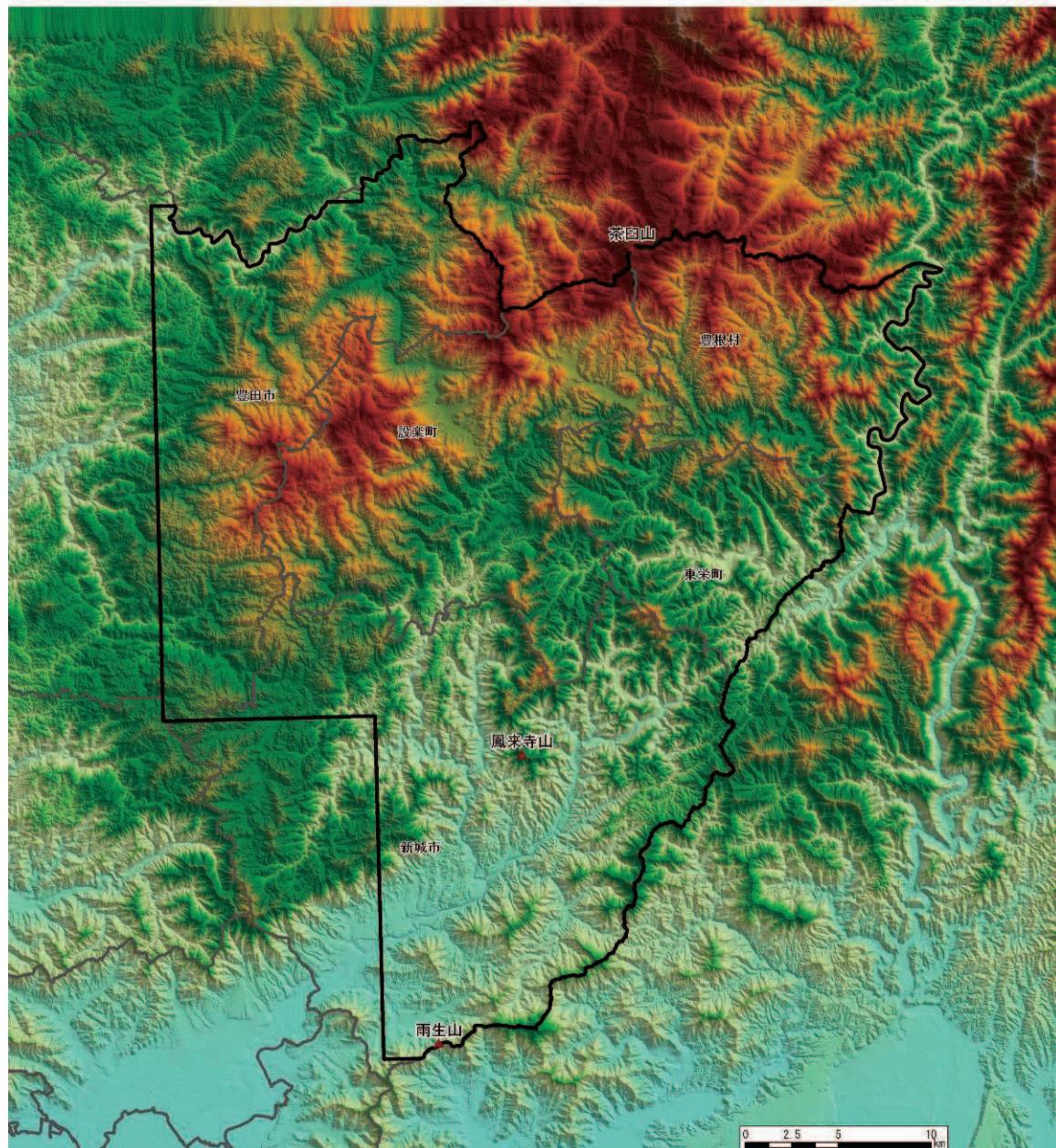


図 2-1 陰影図